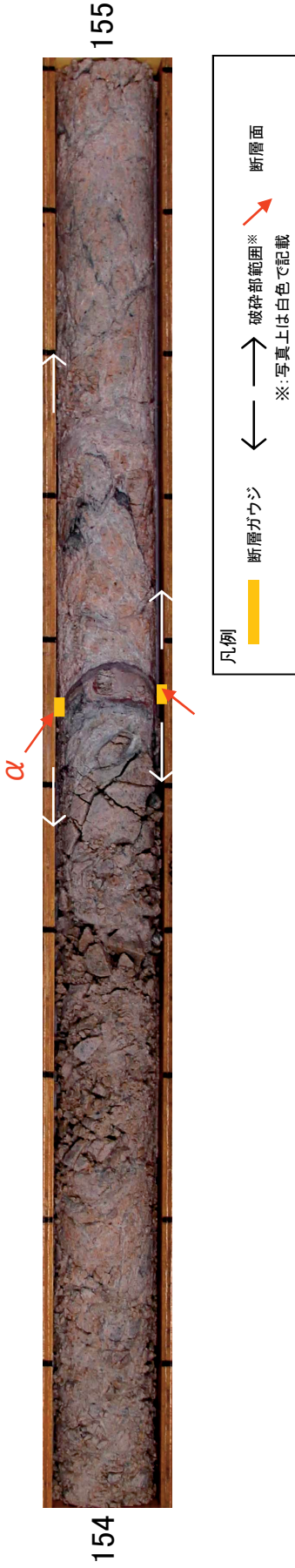
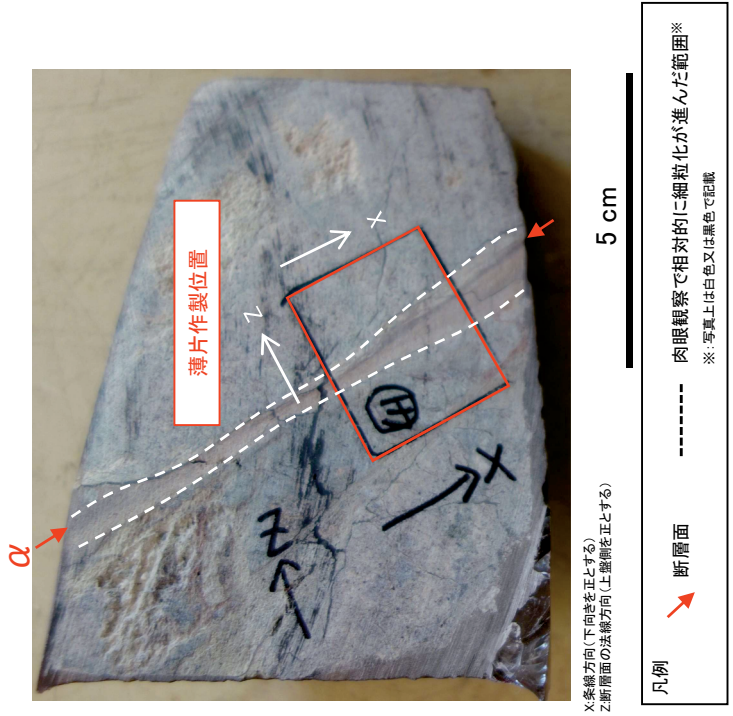


・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

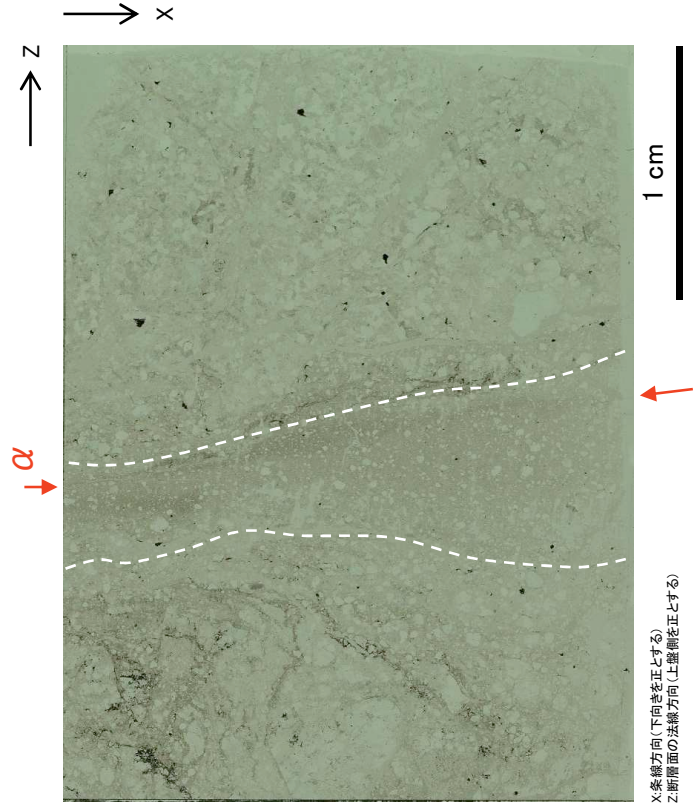
コア写真



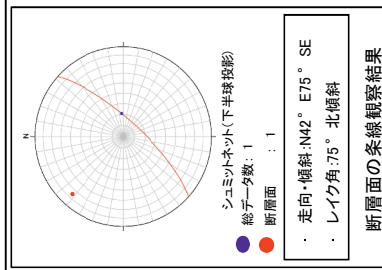
薄片作製位置写真



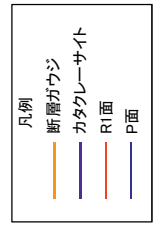
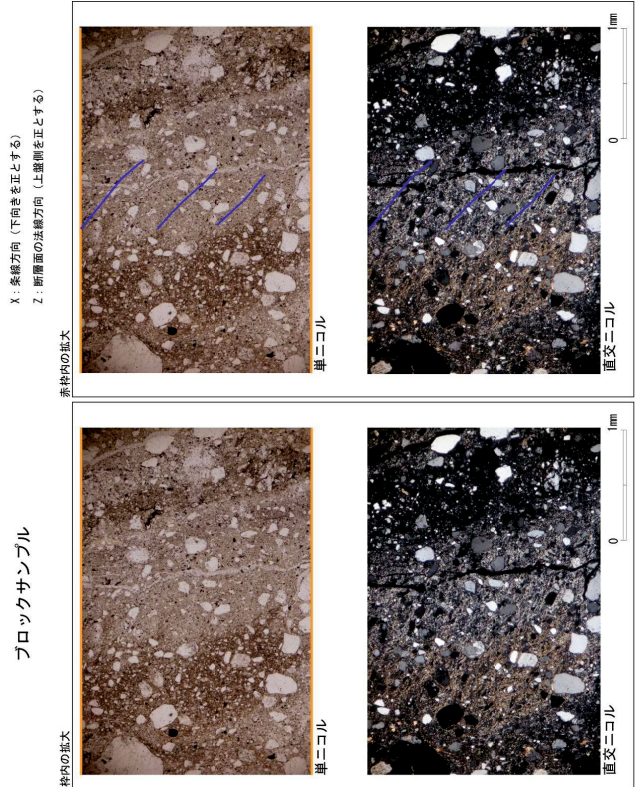
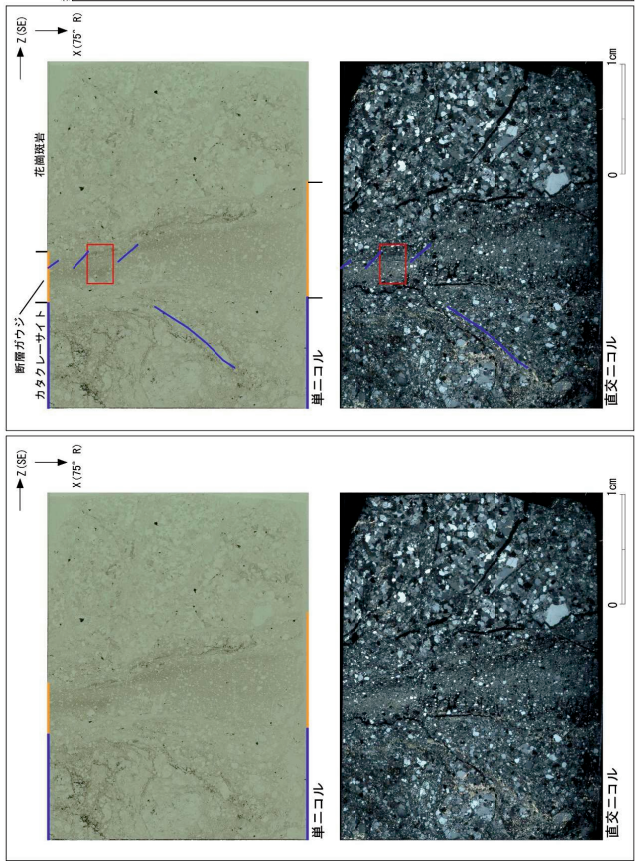
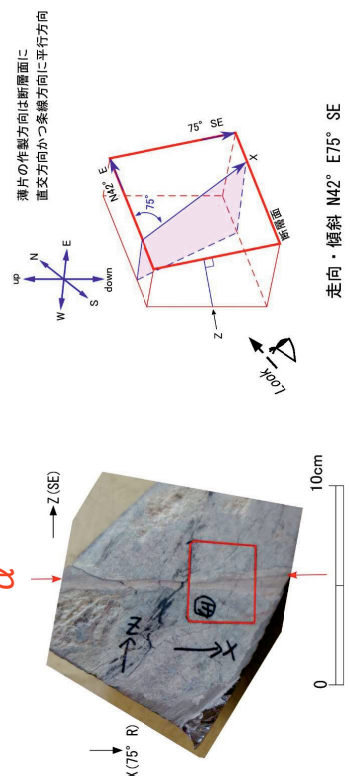
薄片全景写真(単ニコル)



- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。

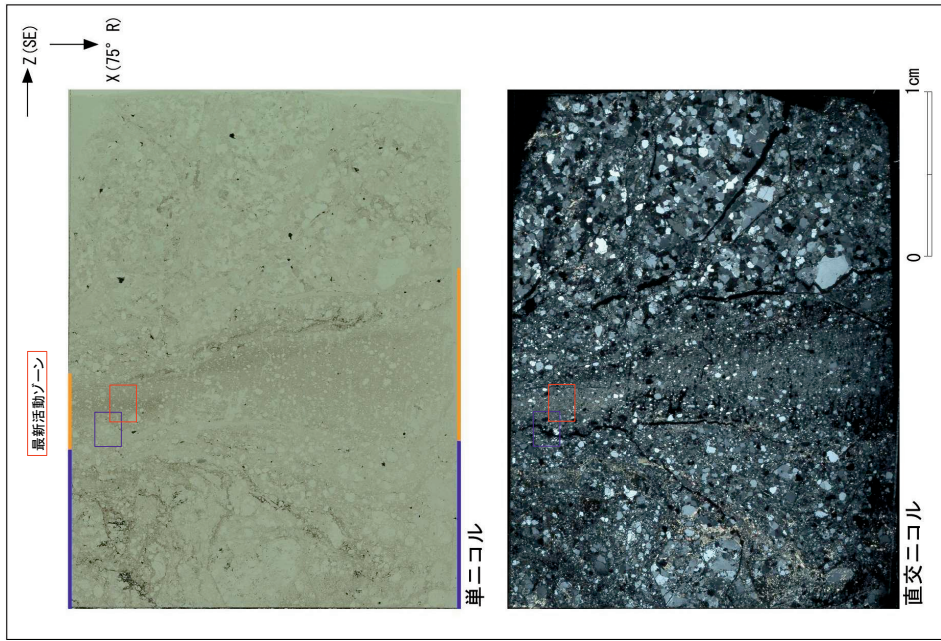


※断層面 α は最新活動面

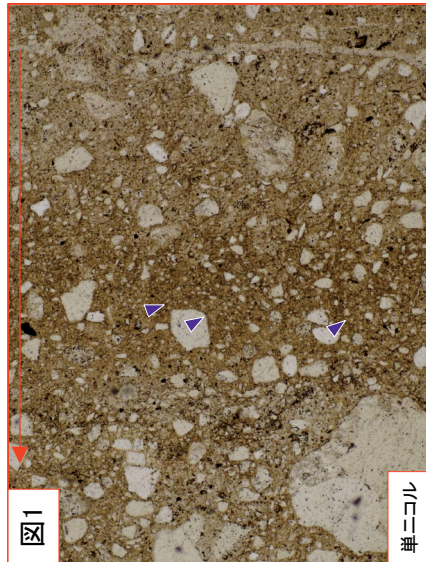


第7.4.4.301図 (3) 破碎部性状 H27-B-2 深度154.53~154.71m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

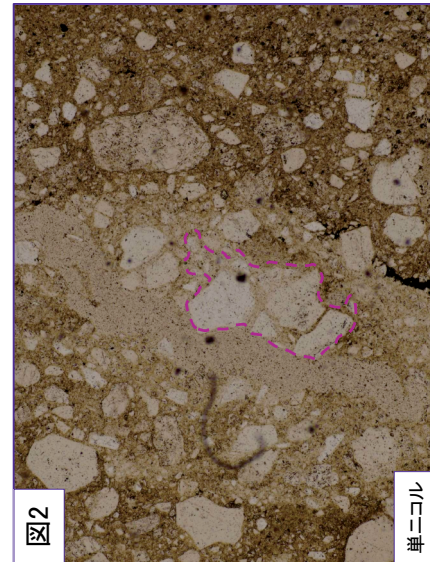
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



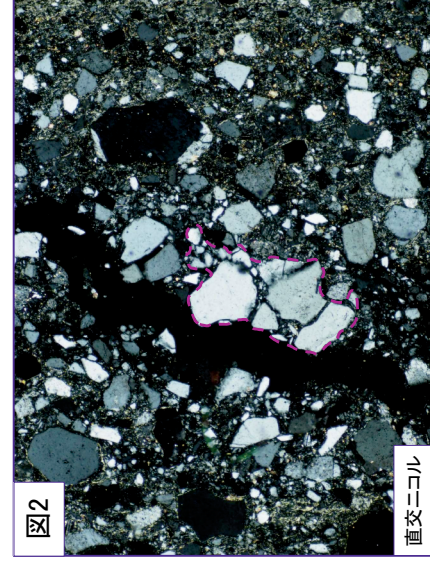
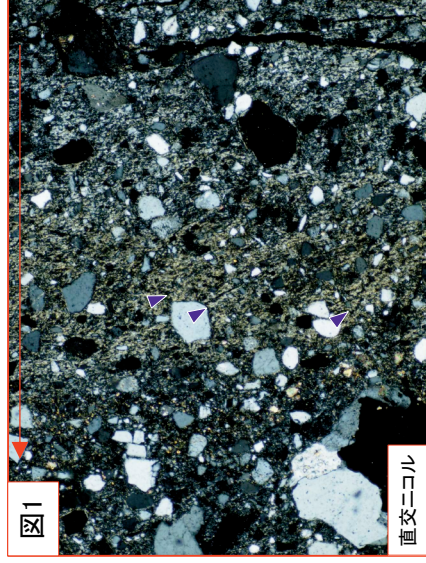
凡例
 断層ガワジ
 カタクレーサイト



赤矢印: 粘土鉱物が漸移的に減少する
 青三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度154.58m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 岩片は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.5	有

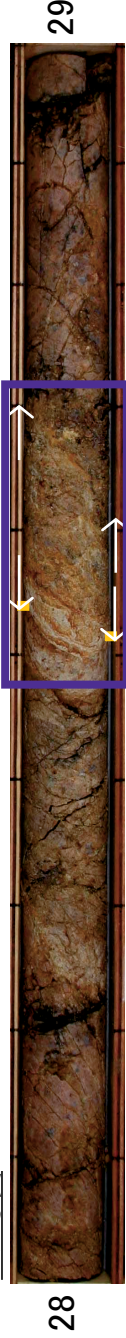
*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- 深度28.50～28.51mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- 深度28.51～28.53mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 深度28.53～28.66mの「粘土混じり角礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

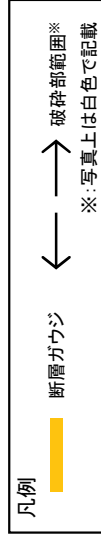
- 28.50～28.66m：破砕部
28.50～28.51m：礫混じり粘土状部（Hc-2）
上端50°，下端50°。径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1～1.5mm。
- 28.51～28.53m：粘土混じり礫状部（Hj）
上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1～2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅23～30mm。
- 28.53～28.66m：粘土混じり角礫状部（Hj）
上端40°で波打って連続、下端は不明瞭。径5～20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄橙色を呈する。幅120mm。

コア写真



28

29



連続性及び直線性が良い細粒部



青砕部拡大

0 5 cm

細粒部が網目状に分布する

細粒部は局所的に分布する

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 α は最新活動面



凡例

- 断層ガウジ
- 断層面
- 破砕部範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片作製位置写真

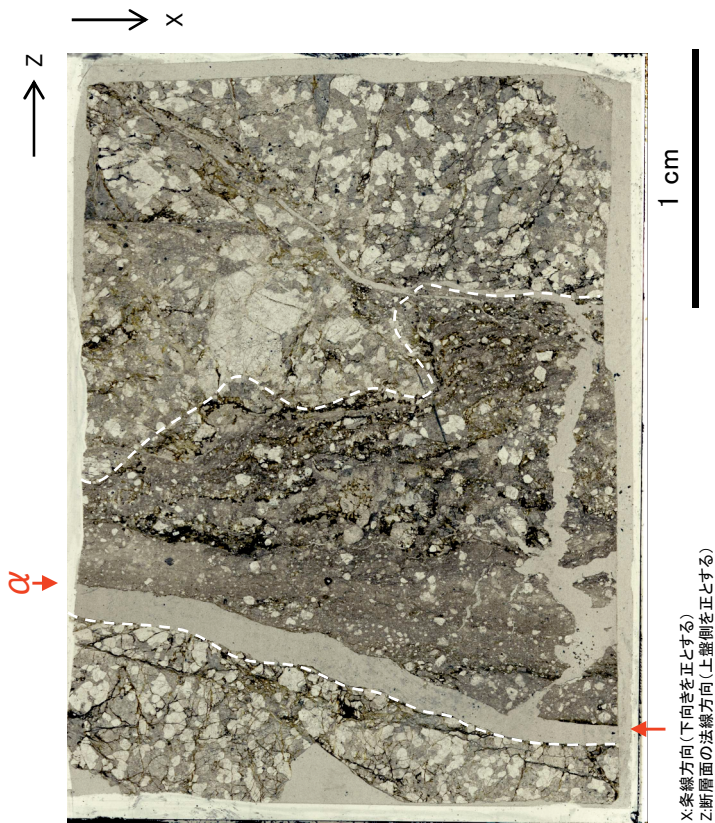


凡例

- 断層面
- 破砕部範囲※
- 薄片作製位置

※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



凡例

- X軸線方向(下向きを正とする)
- Z軸線方向(上盤側を正とする)